

# 気圧上昇と負過度領域によって

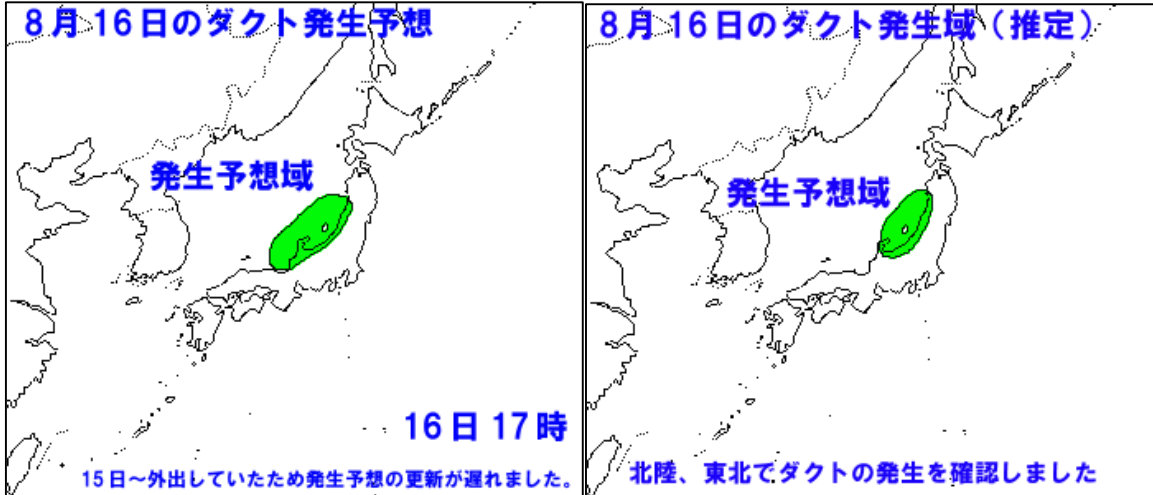
# ダクト発生！ 9 - 7エリア間オ - プン！

2000年 8月16日 JG0TEV 中村 豊

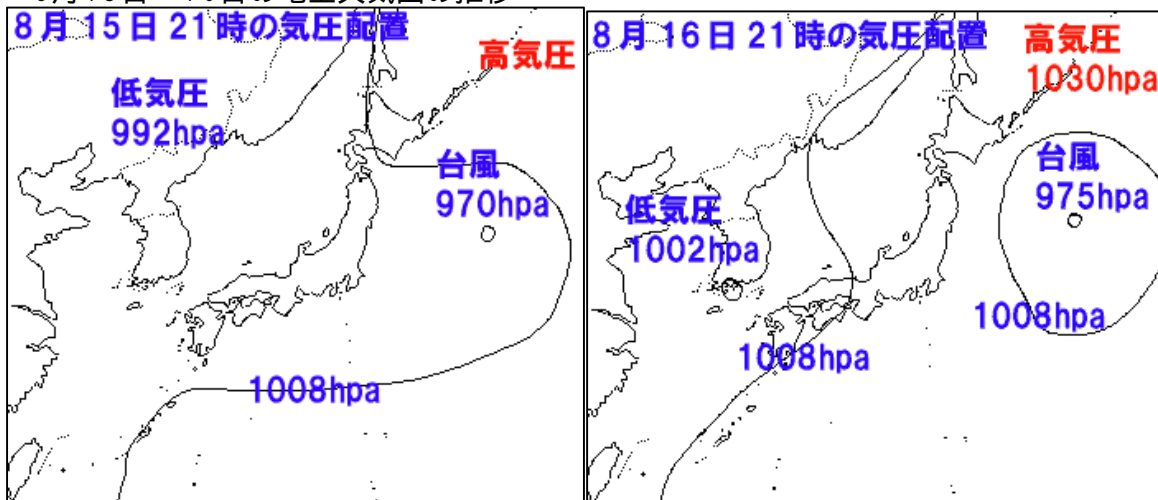
## 1. 気象解析

8月16日は日本海を含む日本付近が負過度領域に覆われたこと、高気圧の勢力が強まり気圧が上昇したことによってダクトが発生し少なくとも9エリア～7エリアに至る範囲でオ - プンとなりました。

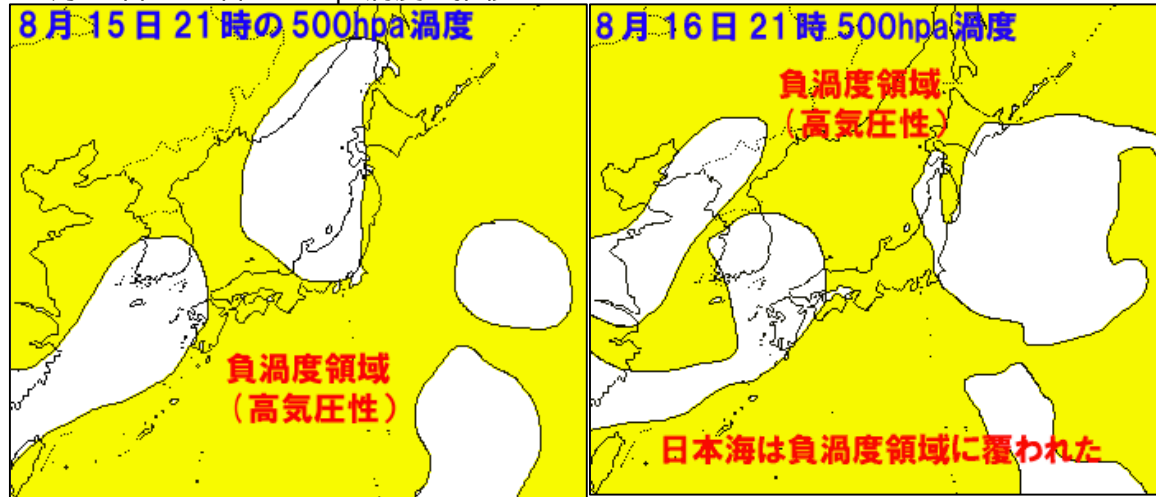
ハンディ機でも200Km以上離れたレピ - タ - をアクセスできるほどの強力さでした。



< 8月15日～16日の地上天気図の推移 >



< 8月15日～16日の500hpa渦度の推移 >



## 2.ダクト発生状況の確認

新潟県西蒲原郡岩室村移動にてダクトの発生状況を確認しました。

9エリアは福井県福井市、7エリアは秋田県本荘市のレピ - タ - まで強力に受信できました。

< 運用設備 >

運用設備 /KENWOOD TM-455 (プリアンプは使用していません) /10W/  
430MHzFM/ 自作 K1FO 22エレ2列1段

## 3.考察～今回のオ - プンについて解析する

### (1)地上天気図、500hpa負渦度領域の移り変わりからダクトの発生を解析・検証

地上天気図の移り変わりを見ると、オホ - ツク海や本州の南海上にある高気圧の勢力が強まって日本付近の気圧が15日～16日にかけての気象状況の変化を見ると、

本州付近での高気圧の勢力が強まり気圧が上昇したことがよくわかります。

また、渦度図を見ると15日は日本海に正渦度領域が広がっていたのに対して、16日には正渦度領域は本州の東に抜け

日本海は負渦度領域に覆われました。

また、日本付近の上空には強い高気圧があって日本付近を広く覆っていました。

以上の気象状況からダクトが発生する諸条件が揃いダクトが形成されたと考えられます。

### 今回のダクト発生のポイントは何か・・・

上空の高気圧が勢力の強い状態が維持され負渦度領域に覆われたうえに、高気圧の勢力が強まったことで気圧が上昇しダクトが形成されたと判断します。

## 4.最後に

今回のオ - プンはダクトが発生するための基本的な条件がそろったために発生したということがわかります。

ただ、この時点で高気圧の勢力が著しく強まった(変化量が大い)わけではないのでオ - プン域も限られた範囲にとどまったと結論付けられます。